（１）五所川原第一高等学校

「シン・アオモリ」作戦

政策を考えた五所川原第一高等学校の皆さんから、メッセージをいただきました！

若者が暮らしやすい県になることができればいいと思います！！

児玉　佳那恵（１学年）

人生の中で貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

高谷　麻華（１学年）

青森県の活性化に向けて積極的に行動しよう！

玉井　遥菜（１学年）

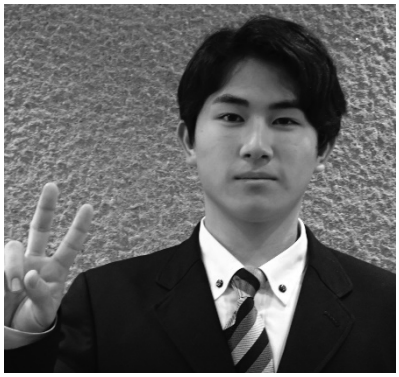
この先、このような場で、このような貴重な体験をすることはないと思うので、この緊張感を今後の生活に活かしていきたいです。

木村　亮哉（１学年）

よい青森をつくっていくために私達がすべきことをしていきます。

坂本　龍希（１学年）

自分が思っていたよりも、議会は堅いものではなくて、議員の皆さんはいい人たちなんだなと思いました。

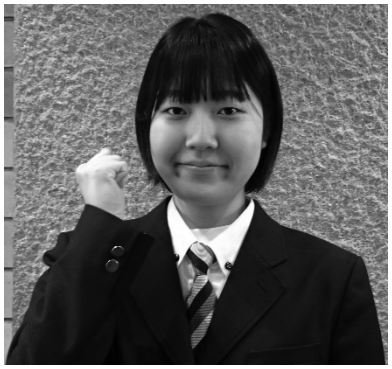


佐藤　晴彦（１学年）

岩村　悠衣（１学年）

青森県の魅力をたくさんの人々に届けよう！そして、青森県の活性化を目指そう！

青森県には私たちが知らないたくさんの魅力があります。みんなでもっと青森県の魅力を知り、盛り上げていきましょう！



相馬　怜奈（２学年）

木村　光惺（２学年）

魅力あふれる青森県を世界に発信していきましょう！！！

老若男女住みやすく、未来に残せる青森県にする！

對馬　笙一郎（２学年）

4度目の挑戦！「シン・アオモリ」作戦

五所川原第一高等学校　地歴公民科　三國　佑太

平成 28 年度に初めて開催された高校生模擬議会の最初の発表が本校でした。それから数えて今回で 4 度目の発表をさせて頂きました。

毎回メンバー選出に頭を悩ませながら模擬議会に参加しています。今年度の新たな取り組みとして、高校生模擬議会「グループワーク」では 1、2 年生の「進学コース」と「特別進学コース」で合同開催しました。

さて、前回の模擬議会の政策提案時に発表した高校生と地域がつながることで関係人口の創出を目指す活動を、生徒たちが三年間取り組んできました。その活動から見えてきた課題を今回の模擬議会のテーマとして議論を進めてきました。

人口減少を最大の課題として、「シン・アオモリ」作戦と題し政策提案を行いました。締めくくりの言葉に「シンカ」を用い、「シン」と「シンカ」に様々な思いを込めたのではないかと私は思います。

今回の発表までの間で一番大変だったと思われるのは、議論する時間の捻出です。学年もコースも違う中で部活動や補講の合間を縫って話し合いと発表資料制作を行いました。全員が集まれる日は少なく、それぞれ役割分担を決め情報共有しながら提出締め切りぎりぎりまで準備をしました。限られた時間の中での準備を通して生徒たちは成長していったと思います。

当日の発表も自分たちの言葉で発表することができたと感じます。また、終了後の振り返りの時間もとても充実していたと感じました。

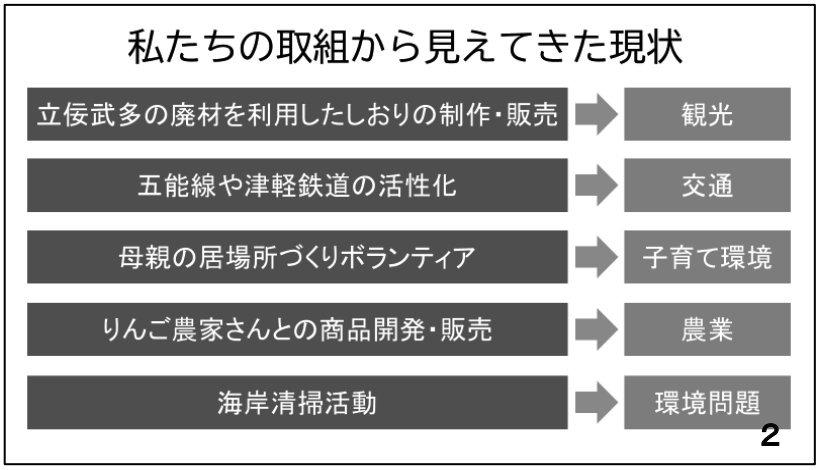
この高校生模擬議会を通じて毎回模擬議会自体も「進化」していると思いますし、生徒も参加前と参加後では青森県に対する考え方が深化したと思います。今後も高校生が次世代の担い手として、青森県が「シンカ」していけるように、現状を見つめ活動していくことを願っております。

私たちが提案する活性化策は「シン・アオモリ」作戦です。（1）

私達の先輩が令和元年度に政策提案をさせていただきました。

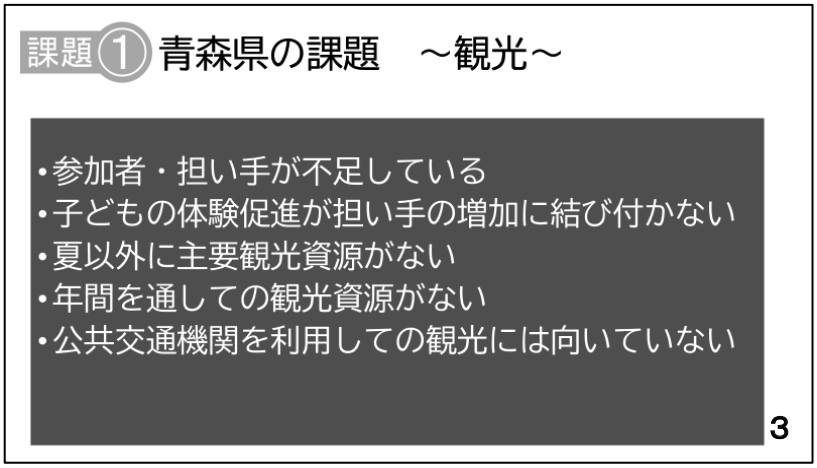
そこでは「高校生と地域がつながり活動する場づくりを行うことで、関係人口の創出ができるのではないか」という提案をさせていただきました。

その後実際に、地域の中で活動をしてきました。



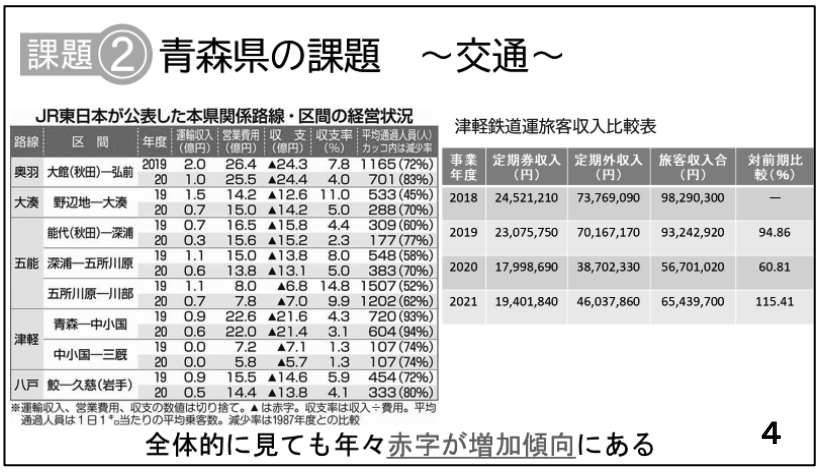
私達は今年度、立ちねぶたやりんごを活用した商品開発や鉄道の活性化、親子の居場所づくり、海岸清掃などに取り組んできました。

今回はこの活動の中で見えてきた地域の課題を中心に活性化策を考えました。（2）



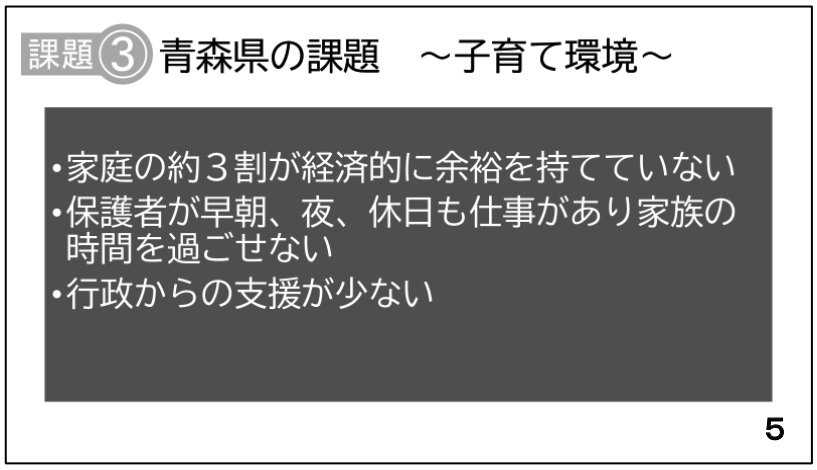
課題１が観光です。観光の課題点としては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、参加者が不足し、祭りの運営者たちの資金が減少してしまうことから、担い手が減っていくのではないかという課題点が考えられます。

その他にも年間を通しての観光資源がないことや公共交通機関を使用しての観光に向いていないのではないかと思いました。（3）



課題２は、電車を中心とした交通です。交通の課題点としては、津軽鉄道や五能線の赤字です。表を見ると年々鉄道利用者が減少していることが分かります。

こちらも青森県の人口減少によるものと新型コロナウイルス感染拡大の影響があると考えられます。このままでは会社運営が厳しくなると思われます。（4）

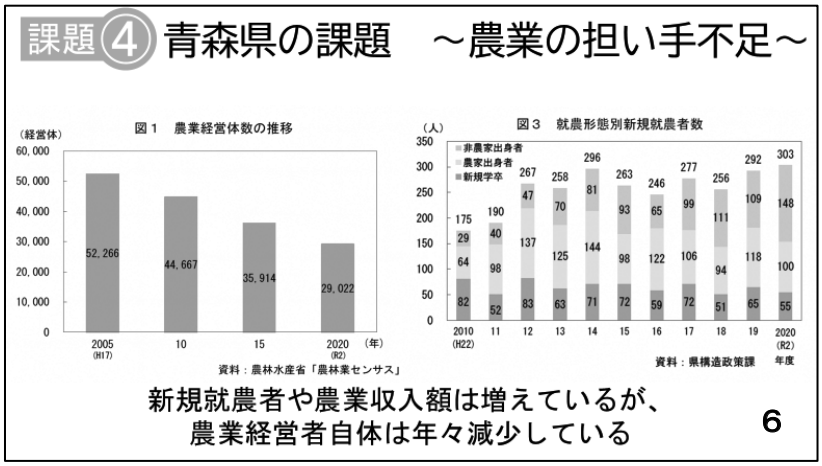


課題３は、子育て環境です。青森県は年々子供の数が減少しており、その理由として、子育てがしにくい環境にあるといった考えがあります。

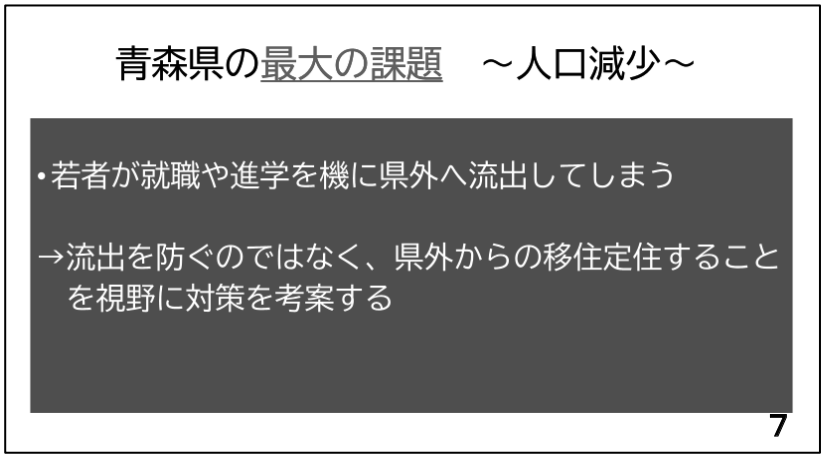
理由としては、経済的な問題が大きいと考えられます。また、保護者が、早朝、夜、休日にも仕事があり家族の時間がとりにくい状態にあるということが課題として考えられます。（5）

私達が月に１度ボランティアに行っている「あづま～る」では親子の居場所づくりを行っています。

そこに来られるお母さん方のお話を聞くと、出産、育児に対する支援が少なく、経済的に厳しい家庭が多いことを感じました。議員の方々にもぜひ足を運びお話を聞いていただきたいと思います。

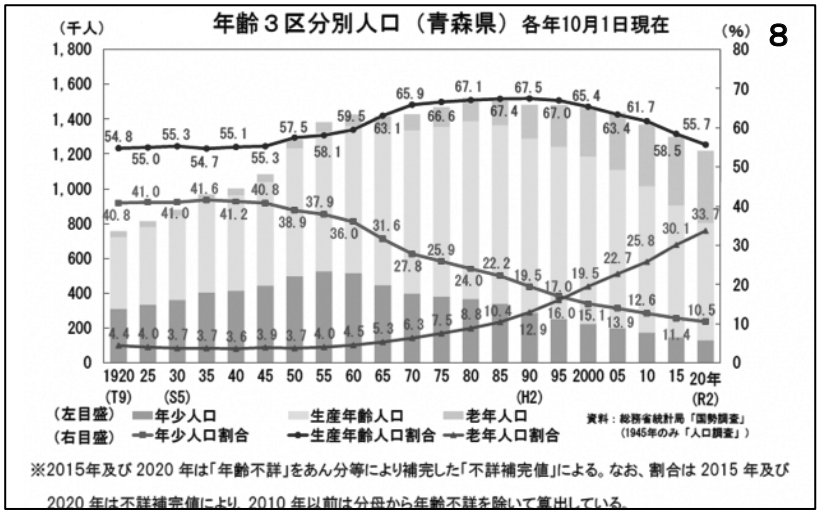


課題４は、農業の担い手不足です。資料にもある通り、新規就農者や収入額は増えているものの、年々農業経営体数が減少しているため人手不足に陥っています。（6）



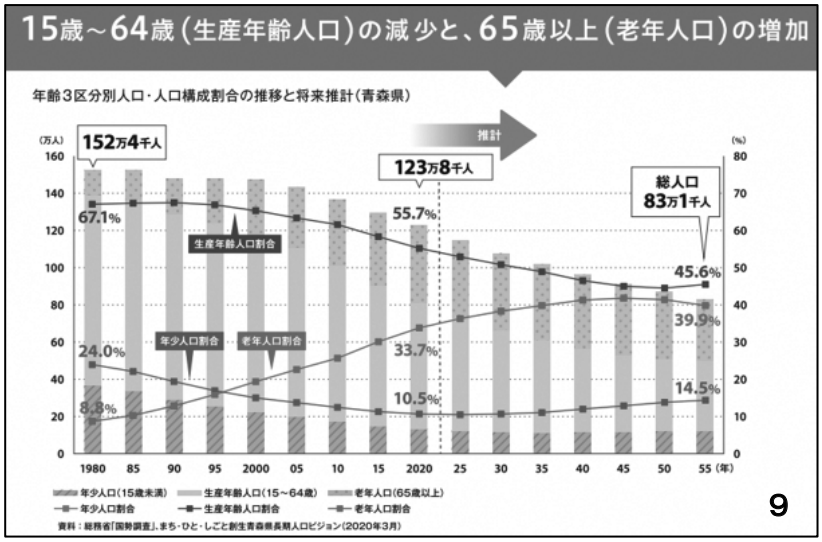
私達はこれらの課題から考えられる青森県最大の課題は「人口減少」にあると考えます。

私達は若者が就職や進学を機に県外へ流出することを防ぐよりも、県外からの移住を促進することを視野に対策を考案することにしました。（7）

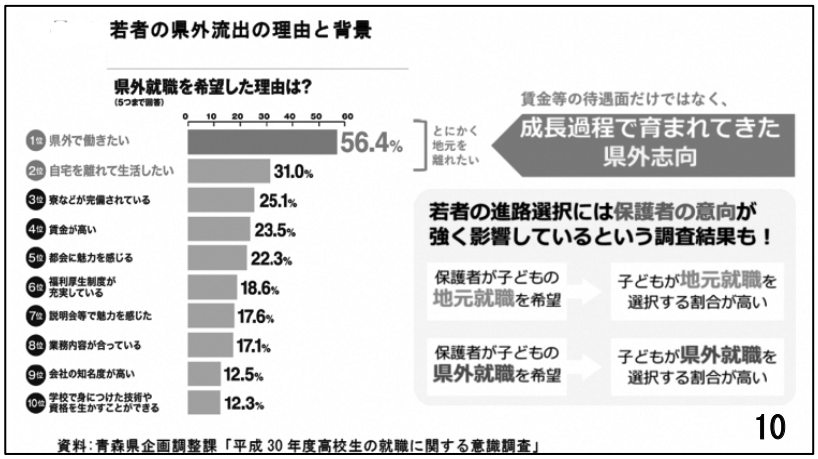


これは青森県の人口推移のグラフになります。

青森県の人口は減少しています。生産年齢人口の割合は高いものの、1990年をピークに減少しています。さらに年少人口が減少し、老年人口が増加しています。（8）

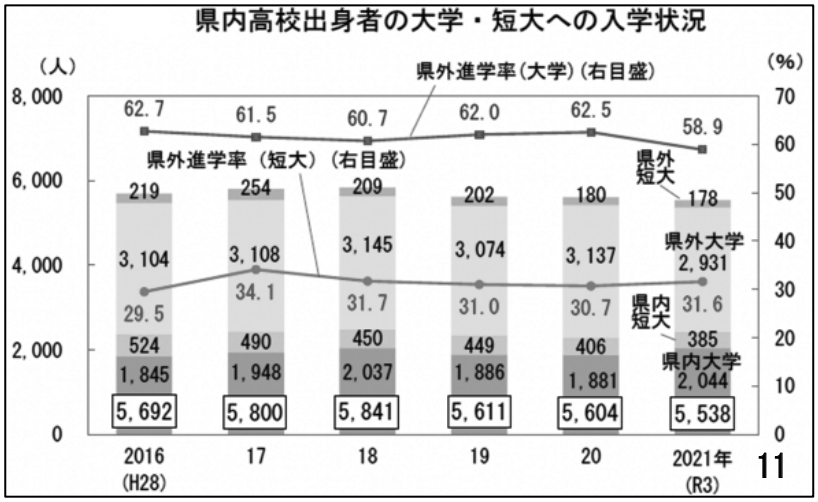


今後の人口推移の予想では、現在の青森県の人口は123万人ですが、2055年には83万人まで減少するとの見通しです。（9）

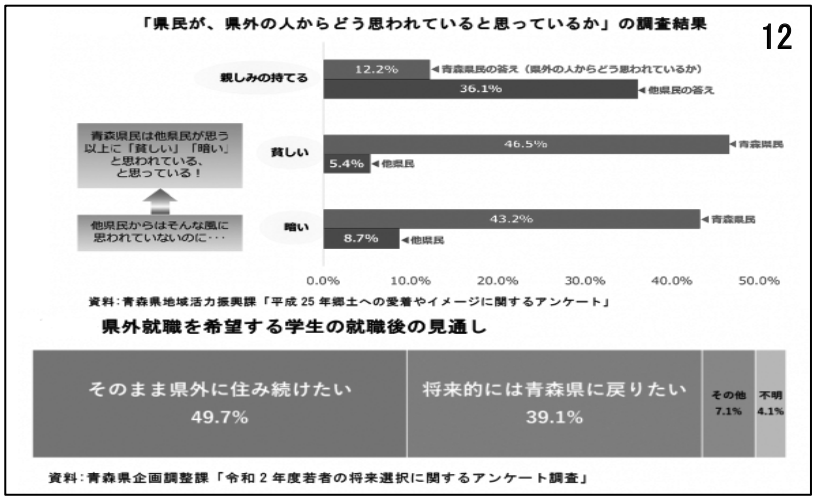


青森県企画調整課の資料では、高校生が県外へ就職する理由として、県外で働きたい、自宅を離れて生活したいと思っている割合が多く、また、保護者の意向が強く影響しているという結果があります。（10）

さらに進学の面からみても県外進学者は60%前後おり、このことから青森県内の高校生は県外指向が強いことがわかります。（11）

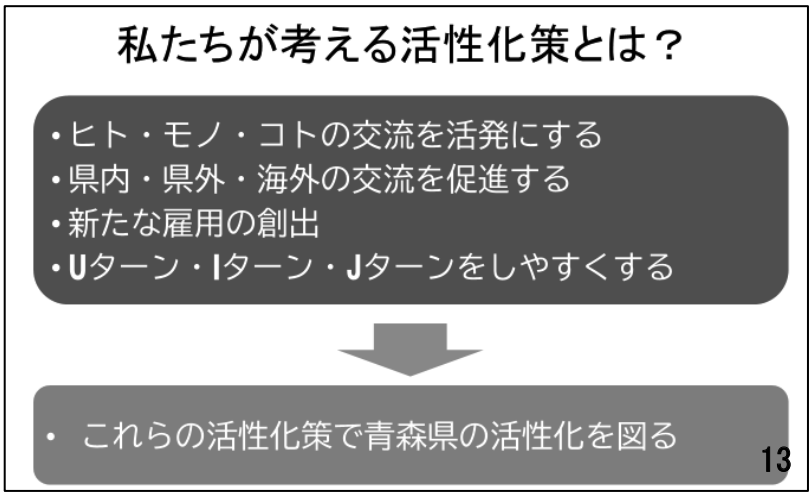


それに加え県外就職を希望する学生の就職後の見通しとして、約50%の学生が県外に住み続けたいと感じています。青森県に戻りたい人は約40%のみです。（12）



しかし、棒グラフの資料から分かるとおり、県外の人から青森県民を見たときに、親しみを持てると思っている人が36.1%いることが分かり、県民と県外の方で意識のギャップがあります。

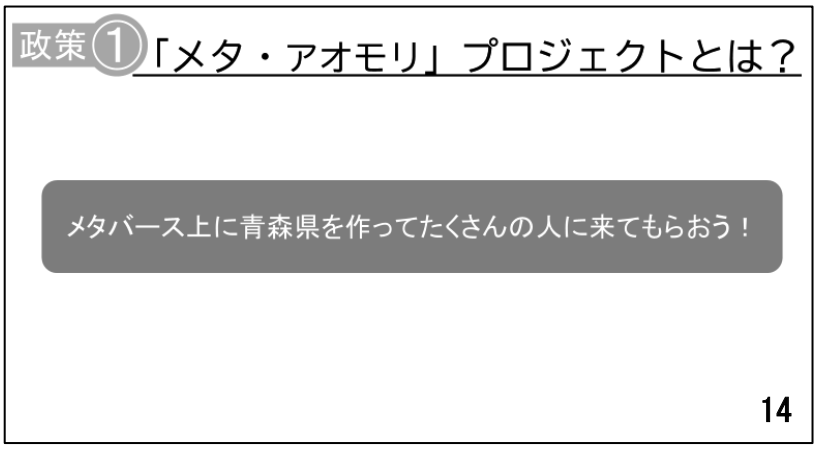
以上のことから、私達は青森県に戻りたい40%の人と青森県民の親しみが持てるイメージを使い、活性化策を考えることにしました。(12)



そこで私たちが考えた「シン・アオモリ」作戦は、ヒト、モノ、コトの交流を活発化させ、次に県内、県外、海外との交流を促進する。県民の流出を防ぐのではなく、Uターン、IターンJターンに焦点を当てて、移住で人を増やす取組を行う。例を挙げるとすれば、青森県ブランドの輸出を増やす、国内外問わず多くの観光客に来てもらうなどです。

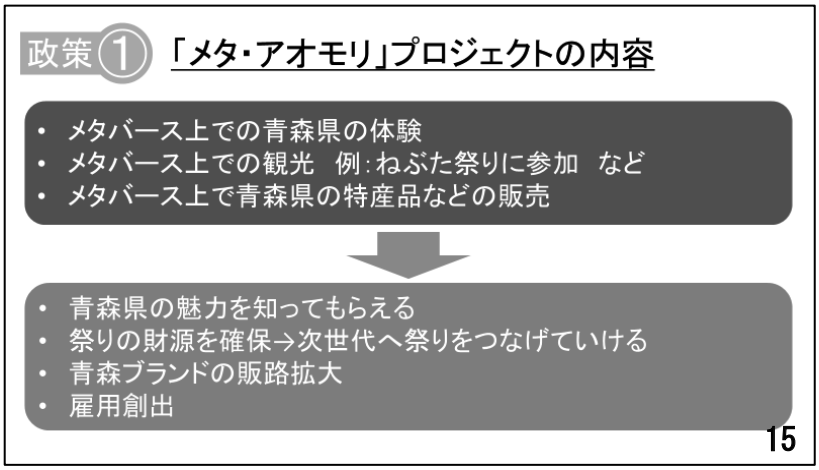
それに伴い、新しい雇用の創出ができたらよいと考えています。これらの活性化案で、青森県の活性化を図ります。(13)

そのために政策提案を３つさせていただきます。



提案する１つ目の政策は「メタ・アオモリ」プロジェクトです。

一言で表すと、仮想空間を利用した観光業で青森県の魅力に触れてもらい、雇用の創出や移住を促進することです。(14)

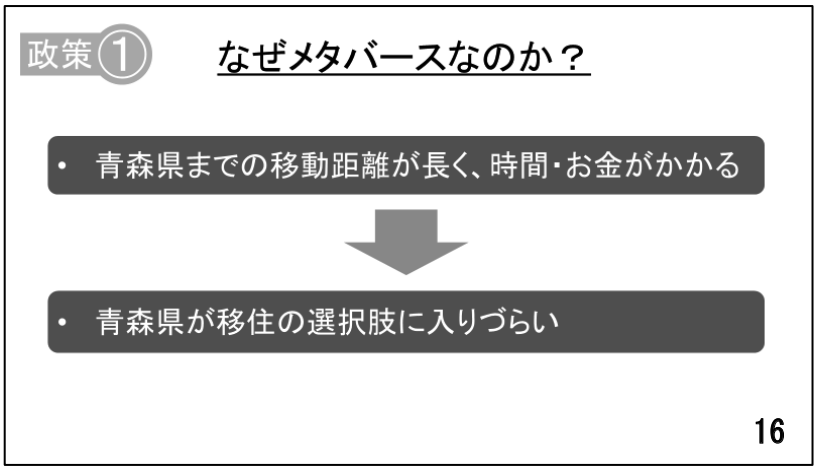


主な内容として、メタバース上で青森県の体験をできるようにする、メタバース上での観光をできるようにする。

例を挙げるとすると、ねぶた祭りの参加や八戸三社大祭の参加です。また青森県の特産品の販売をできるようにするなどです。

それらの活動により、青森県の魅力を知ってもらえる、青森ブランドの販売経路拡大などの効果が期待されます。

現在も移住希望者向けのイベントを都内で開催したり、実際に来てもらったりしています。このメタバースはその中間的な役割を果たし、実際に来てもらう前に青森県を知ってもらう切っかけづくりのために行います。(15)



なぜメタバースなのかは、実際に都心から青森県に来るとすると、新幹線で約３時間掛かります。費用としては17,000円近くと、時間もお金も掛かってしまいます。こういった問題があり、１年に何回も訪れることは難しいです。

そのため将来的に青森県に移住しようと考える可能性は低いと思われます。(16)

しかし、メタバースを利用すると、お金や時間を掛けず気軽に青森県に訪れることができます。そしてメタバースを切っかけに、直接行かなくても青森県の魅力を手軽に知ることができます。(17)

政策① なぜメタバースなのか？

- メタバースを利用し、仮想空間上の青森県に気軽に訪れることができる
- 青森県の魅力を知ることができる
- 青森県が移住の選択肢に入ってくる

17

そういったことで、青森県が移住先の選択肢に入る可能性が生まれます。(17)

政策② 「マイナポイント」プロジェクト

公共交通機関の利用を促進しよう！

18

２つめの政策は「マイナポイント」プロジェクトです。これは、公共交通機関を利用することで、マイナポイントが貯まっていくといった政策です。(18)

主な活用内容としては、公共交通機関を利用することでマイナポイントが付与される。ふるさと納税のように、公共交通機関を利用すると住民税控除となる。誕生日の月に公共交通機関を利用すると特別バースデイポイントとしてポイントが付与されるといったことが挙げられます。

政策② マイナポイントを活用の内容

- 公共交通機関利用時にマイナポイントを付与
- 公共交通機関利用すると住民税控除
- 誕生日にバースデーポイントを付与

- 公共交通機関の利用者増加→公共交通機関の存続
- 車の排気ガス削減→環境汚染の改善
- 行政からの経済支援→子育て環境の改善

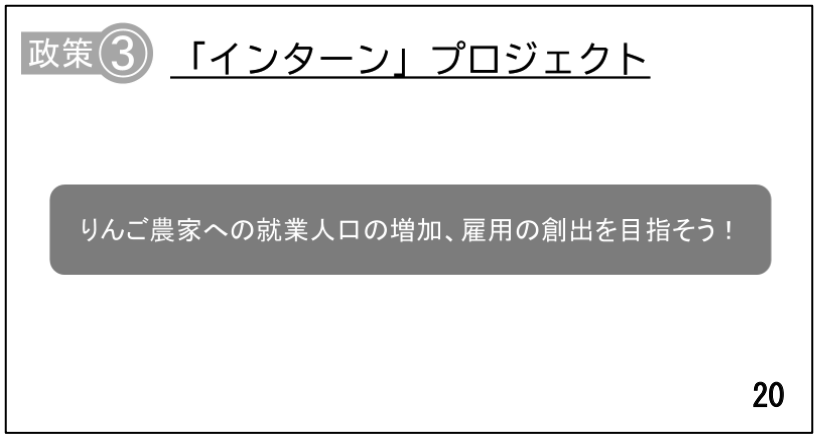
19

主な効果として、公共交通機関の利用者が増加することで、赤字が少しでも抑えられ公共交通機関の存続が期待できます。

また公共交通機関を利用することで車の排気ガスを削減することにより、環境汚染の改善につながります。(19)

さらに、バースデイポイントによる行政からの経済支援により、子育て環境が少しでも改善される、家族の時間が作り出せるなどといった効果が生まれます。

最近では弘南バスで今春開始する予定のメゴイカがありますが、そのカードとも連携することで、さらに地域独自の取組が行えると思います。(19)

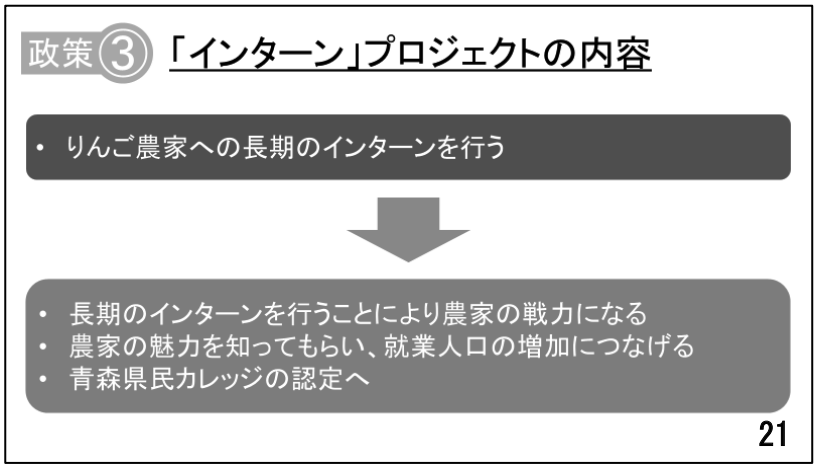


最後に提案する政策は「インターン」プロジェクトです。

これは、りんご農家を始めとした就農者の増加、雇用の創出を目指すといった政策になります。(20)

中学校や高校でもインターンシップが行われていますが、期間は３日ほどです。これでは企業側にはメリットが少ないと感じます。しかし１年間を通してインターンシップを行うことで、お互いにメリットが出てくると思います。

内容は主な作業工程である剪定、実すぐり、葉とり、りんごもぎの４工程を行ってもらいます。



さらにイベントでの販売や加工品作りにも取り組むことで、ブランディングやマーケティングも学ぶことができると考えます。

このインターンで農家の魅力に気付いてもらうことで、就農人口の増加につなげる、青森県民カレッジの認定につなげる等の効果が期待されます。(21)

この「シン・アオモリ」作戦のメリットとしては、若い人たち、特に10～50代の人たちは活用しやすいこと。そしてマイナポイント付与であるため、新たな装置の設置は不要であることが挙げられます。また、全国全世界どこにいても青森県の魅力を知ってもらうことができます。

一方デメリットとしては、高齢者の利用率が低くなってしまうことが挙げられますが、これらの政策は生産年齢人口に焦点を当てた政策のため、デメリットを避けることができないと考えています。

「シン・アオモリ」作戦によって

～メリット～
- 若い人たちは活用しやすい
- ポイント付与であるため新たな装置の設置は不要
- 家に居ながら青森県の魅力を知ってもらえる

～デメリット～
- 高齢者の利用率が低くなる
→行政でサポート
→生産年齢人口をターゲットにした政策のため致し方ない

～他の問題～
- 財源の問題
→ふるさと納税・財政改革

22

生産年齢人口の増加がなければ経済が停滞し、高齢者を支える財政基盤が無くなります。

しかしそこは、行政でサポートをしてもらうことや、若者たちへのボランティアへとつなげることで、青森県内の若者と高齢者の関わりを生み出し、多世代の交流を生み出すことが期待できます。

他の問題としては、財源の問題がありますが、そこは、この作戦が成功していくと、ふるさと納税や移住をしてくれる人が増加することが期待できますので、長期的ではありますが解決へと向かうことができます。(22)

まとめ

これらの課題解決のため、私たちは次世代の「担い手」として青森県が「シンカ」していけるように活動していく！

23

そのために今私に出来ることは地域の良さを知り、より多くのヒトやコトに関わり、高校生の立場から地域を創造していくことだと思います。
これらの青森県の課題解決のため、次世代の担い手として、青森県が「シンカ」していけるように、現状を見つめて活動をしていきます。(23)

「青森県基本計画『選ばれる青森』への挑戦」は2030年に生活創造社会の実現を目指していると思います。そのとき私達は23歳です。私達が23歳になったときに自分自身の将来の夢を叶え、生まれ育った地域で生活をしていきたいです。

【質　疑（質問者：県議会議員、答弁者：五所川原第一高等学校）】

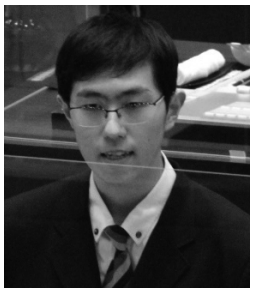
●谷川（たにかわ）　政人（まさと）議員（自由民主党）

（谷川議員）

これからの時代に大きな影響を及ぼすと思われるメタバースの活用を踏まえた大変貴重な政策提案であったと思います。

メタバース上に青森県を作り、青森県の様々な体験をしてもらうという御提案でしたが、県外の人にとって青森県のどのような体験が一番魅力的だと考えているのかお伺いをしたいと思います。

（答弁）



一番をあげるとするとねぶた祭が魅力的です。しかし、ねぶた祭は１年間の中で約１週間しかありません。そこで、私が考える魅力的な体験は、青森県の日常や季節を体験してもらうことが一番いいと考えています。

春に桜が満開に咲く様子や、夏の田んぼが青々と茂る様子、秋のカラフルな紅葉、冬の厳しいけれども静かな雪の様子などです。また、“こぎん刺し”などの伝統工芸品や“金魚ねぶた”などのキットを予め購入し、メタバース上で他の人と一緒に作ることで青森県の魅力に触れる機会を創出したらいいと考えます。

僭越ながら、青森県の政治に対して今まで培ってきたものを土台として、これからの青森県をさらに発展するために挑戦し、うさぎのように飛躍することを、青森県議会議員の方々に期待しています。

さらに今年は青森県知事選挙がありますので、青森県民の生活を豊かにする方や新しいことに挑戦していく方が知事になることを願っています。

（谷川議員）

四季を彩る青森県の魅力をしっかりと前に押し出し、メタバースを活用して今後取組を行っていったらいいのではないかという御意見でした。私もこの青森県の魅力はやはり季節にあるのではないかと思っていますので、皆さんと同じ考えだったなと改めて思わせてもいただきました。

今回御提案をいただいたメタバースを活用した様々な取組は、鳥取県を始めとする全国の各自治体で既に取組が進められていると聞き及んでいます。

皆さんのこの度の御提案を参考にしながら、今後青森県としてしっかりと取り組んでいけるよう、私も今後県に対して促していきたいと思います。

●渋谷（しぶたに）　哲一（てつかず）議員（県民主役の県政の会）

（渋谷議員）

私からはマイナポイントプロジェクト、公共交通機関の利用を促進しようという点について質問させていただきます。この問題は非常にタイムリーな問題でありまして、この県議会でも実際、青森県内の公共交通機関をどうしていこうかという議論が行われています。

皆さんにご指摘いただきました鉄道の赤字、そして実はバスも赤字、民間運営のタクシーも大半が赤字になって、今後青森県内でどうやってこの公共交通機関

を維持していこうかと、そういう課題に私達は現在進行形で直面しています。

今回の公共交通機関利用時等のマイナポイントの付与は、非常に有効な御提案だと思いますが、青森県の活性化を図るため、他にマイナポイントが活用できそうだと考えるものがありましたら御提案をお願いします。

（答弁）

私は去年の４月に埼玉県から青森県に引っ越してきました。そこで感じたのは駅前が寂しいということです。このことから交通の活性化を提案させていただきました。

公共交通機関以外でのマイナポイントの活用ですが、例えば青森県産のものや特産品、お土産を購入した時にポイントを付与すると、意識的に青森県産のものを購入する地産地消という形を作れると考えます。メリットとしては、県外の人にもっと興味を持ってもらえる、移住者が増えるなどです。

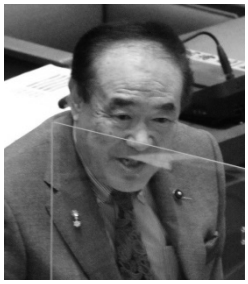
また、青森県には四季を問わずお祭りなどのイベントがあるので、その地域のイベントに参加した時にポイントを付与するようにすると、地域の伝統も守られていくのではないかと考えます。

（渋谷議員）

県産品、特産品にマイナポイントを付与して県産品へのさらなる魅力を発信するということで御提案をいただきました。ぜひとも今後の議会でそういったものを反映させるように取り組んでいきたいと思います。

●今（こん） 博（ひろし） 議員（立憲民主党）

（今議員）



素晴らしい御提案、政策の発想だなと改めて感謝を申し上げたいと思います。私が特に注目しているのは、りんご農家への長期のインターンを行うという課題についてです。

農業の生産現場では高齢化と人口減少により人手不足が深刻な状況で、特にコロナ禍からの回復に動き出している現在、社会全体が人手不足となっております。そのためりんご農家の皆さんがハローワークなどに求人票を出しても人が集まらず苦労しているという話も聞いております。

一方で、学生のインターンはそもそも学習目的で行われています。例えばりんご農家の将来の担い手育成として考えると、花摘みから収穫まで、できれば技術を養成する剪定まで、学生らが実際に１年の農作業を現場で経験することが理想です。そして年数を重ねることでスキルが上がります。長期間に渡る学習をすることで、結果的に農家の人手不足解消につながります。

提案のあった長期のインターン実施については非常によいアイディアだと思います。しかしながら長期のインターンが可能な参加者をどのように集めるのか、地域を越えて広く募集する必要があるかなどの課題があると考えます。

そこで質問をいたします。りんご農家へのインターン参加者の募集方法について、どのような方法が考えられるか。また、長期ということですが、どの程度の時間、期間を想定しているのかお伺いしたいと思います。

（答弁）

りんご農家へのインターン参加者の募集方法としては、ＰＲ動画をホームページ上に載せて体験希望者を集めたり、学校で体験学習をしたりして集めます。

しかしこれだけではアピール不足であるため、農協や行政、社会教育センターなどが主体となって事業化していくことで、より多くの人にＰＲすることができると考えます。

また、期間については、１年間を通じた農作業をメインにしたいと思います。剪定から始め出荷まで定期的に行いたいと考えます。さらに、りんごジュースなどの加工品や市場開拓なども農家さんと一緒に考えることができると、多角的・多面的に農業に触れることができると考えています。

（今議員）

１年を通じての長期間ということですので、農家にはとても有り難いお話だと思います。そのためには将来農業で働きたいと考える方々が広く募集できるような、先ほどの効果的な募集方法やＳＮＳなど、様々な対策を一緒に考えていきたいと思います。

【質　疑（質問者：五所川原第一高等学校、答弁者：県）】

（質問）

青森県の最大の課題として人口減少が挙げられると思います。

私の住んでいる深浦町では、唯一の高校である木造高等学校深浦校舎が今年で閉校になってしまいます。そのことが原因で深浦町の学生の中には秋田県の高校へ行ってしまうなど、若いうちから県外へ移住してしまう生徒が多いです。深浦町にはもう殆どの若者がおらず、高齢者ばかりの過疎地域となってしまいました。

そこで深浦町にも移住を増やせば活性化を取り戻すことができるのではないかと考えております。その上で、現在青森県への移住を促進するために行っている取組について伺いたいと思います。

また、若い人達が暮らしやすい県にするためには、子育てのしやすい環境づくりが大切だと思います。私がボランティアで参加した「あづま～る」では、地域の子ども達とたくさん遊んだり、その保護者のお話をたくさん聞く機会がありました。保護者の話を聞いて、子育てのしやすい環境はとても大切だと感じました。そこで現在県では子育て環境の向上に向けてどのような取組を行っているのか、この２点についてお伺いしたいと思います。

●企画政策部 地域活力振興課

（地域活力振興課長）

コロナ禍にあって地方移住に対する関心が高まる中、県では、この機会を逃すことなく、本県への移住者の増加につなげる取組を進めています。

具体的には、青森県への移住を検討している人の、青森県での仕事や暮らし、住まいなどの様々な悩みや不安に応えていくため、東京の有楽町に移住相談窓口を設置しているほか、市町村などと一緒に移住相談イベントを開催し、本県の暮らしやすさや、創業・起業への支援、リモートワーク等による多様な働き方など、本県の魅力を直接相談者にＰＲしているところです。

また、県では、様々な形で県外との交流を進めていますが、一例として「関係人口」を呼び込む取組についてお答えします。

津軽半島の北部にある今別町には、「荒馬」という伝統の夏の祭りがありますが、京都や宮城などの県外大学の学生たちが 20 年以上にわたって参加し続けております。祭りへの参加を切っかけに、町民との交流を深め、今では祭りのみならず、年に数回町を訪れ、地域活動の担い手として欠かせない存在となっております。このように県外に住みながらも地域と交流し、地域のために行動する方々は「関係人口」と呼ばれ、全国で増加しています。

人口減少が進む中、地域づくりの新たな担い手として「関係人口」の存在は重要であることから、県では、実際に「関係人口」を呼び込み、住民の方々と一緒に課題解決に取り組む地域を支援しているところです。

●健康福祉部 こどもみらい課

（こどもみらい課長）

御質問いただいた子育てをしやすい環境づくりは、県としても重要であると考えております。県では、令和２年３月に策定した「のびのびあおもり子育てプラン」後期計画に基づき、結婚・妊娠・出産・子育ての各段階に応じた、切れ目のない支援体制の構築に取り組んでいます。

具体的には、妊娠した全ての方の情報を市町村、医療機関、保健所が共有し、妊産婦への支援を連携して行う体制を整備しています。また、３歳から５歳までの全ての子どもの保育所等の費用の無償化を行い、保護者の子育てをする際の費用負担の軽減を図っています。さらに、県内の市町村と連携を図りながら、一時預かりや延長保育、病児保育等の保育サービスの充実に取り組んでいます。

このほか、子育て中の方へ協賛店が割引等のサービスを提供する「あおもり子育て応援パスポート事業」や子育て支援の情報をホームページで公開する「あおもり子育て応援サイト」の運営等を行っています。

本県では、今後も、社会全体で子育てを支え合い、安心して子どもを産み育てられる環境づくりを推進するとともに、「子ども」を中心に据えた施策を総合的かつ強力に展開していきます。